



Jichi 地域連携ニュース

- ・教授就任のご挨拶 ……………川合 謙介
- ・NST研修会のご案内
- ・診療部門からのメッセージ …腫瘍センター
- ・地域医療連携研究会の開催報告

脳神経外科教授就任のご挨拶

脳神経外科教授 川合謙介



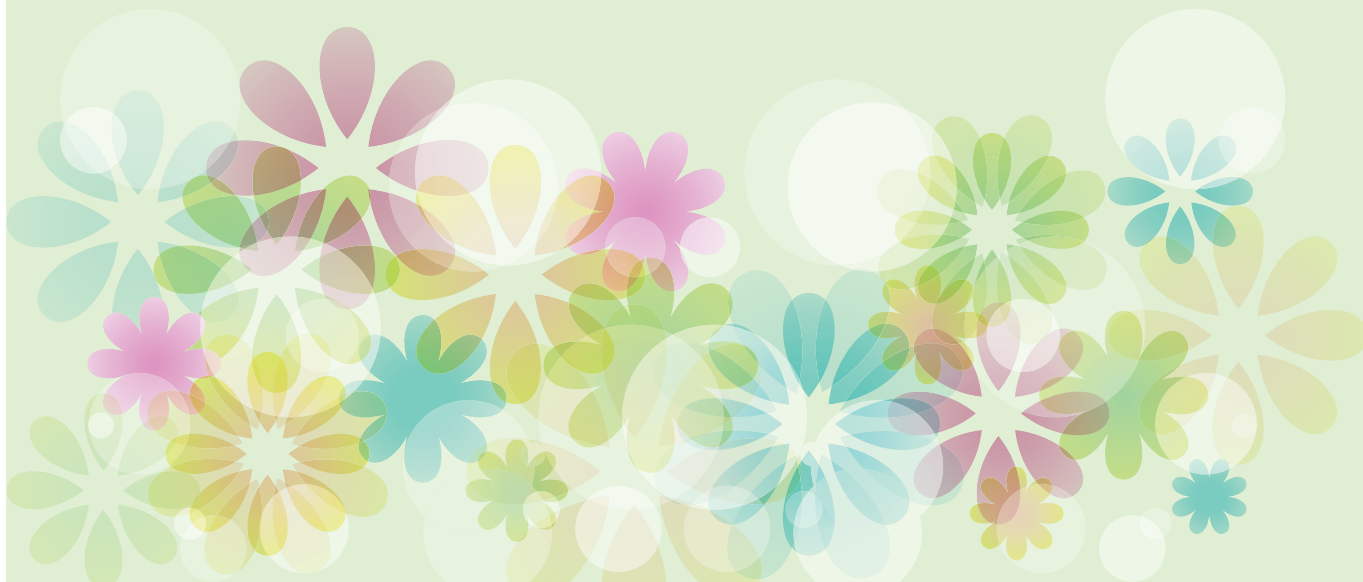
この度、2016年1月1日付けで脳神経外科学教室の教授に就任しました川合謙介よりご挨拶を申し上げます。

私は1987年に東京大学を卒業し、会津若松市や福山市の関連病院、帝京大学救命救急センターなどで脳卒中を主とした脳神経外科救急の経験を積んだ後、東大病院や都立神経病院で脳腫瘍や機能的脳神経外科などサブスペシャリティー手術を学びました。2003年から5年間、東大脳神経外科病棟医長として様々な手術を担当、その後の5年は東大大学院准教授として卒前卒後教育全般、大学院生指導を担当しました。その後、前職のNTT東日本関東病院では脳神経外科部長・脳卒中センター長として、診療科全体の統括や運営を経験してまいりました。

自治医科大学では、これら大学病院および民間病院での経験を脳神経外科診療の一層の充実に生かしてゆきたいと考えています。幸い、当科ではこれまでも各サブスペシャリティー領域の専門家が高レベルの診療を行ってきましたが、脳卒中や脳腫瘍などでも日々の進歩に応じた最先端の診療を提供してまいる所存です。

脳神経領域の地域連携では、すでに保険診療に組み込まれている脳卒中に加えて、てんかんの地域連携診療のモデル事業が始まりました。自治医科大学は全国8拠点の一つに選定されたので、てんかん診療でも一層の充実に努めてまいります。地域の先生方と密な連携を築きながら北関東の脳神経外科診療を盛り立ててゆきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

連絡先：kenkawai-tky@jichi.ac.jp、医局Tel：0285-58-7373





がんサロン「虹」 ご紹介とご案内

腫瘍センター長 藤井 博文

わが国では、がんにより二人に一人がかかり、三人に一人が亡くなる状態で、国民病として認識されてきています。診断されるといろいろな悩みが生じてきますが、それを克服していくには、がんを知って、がんに向き合っていく必要があります。とは言っても、どうやって知るか、どうやって知ったことをやっていくかなどについては、さらに困ってしまう場面があると思います。それを支援するものとして、医療者だけでなくがんの経験者を交え、一般的ながんの療養情報や知識、具体的な経験や考え方を知り、話し合う場として、がんサロン「虹」を、院内の多職種が連携・協働して開催しています。

毎月第2木曜日の午後2時より約2時間で、がんの患者さん・ご家族を対象として行っており、平成28年は表のように予定しており、ミニレクチャー、リラクゼーション、自由な語りという構成です。ミニレクチャーではがんに関する医療の内容や生活面での注意点や考え方などについて毎回テーマを決めてお話しし、正しい理解から適切な判断をしていただくことを目指しています。堅苦しいレクチャーの直後では語り合いも進みませんのでアイスブレイキングのため、また毎日のストレスを和らげる方法をとって、リラクゼーションの時間を入れています。自由な語りにおいては、参加者の方々の実体験、考え方等をお話しいただき、患者さん・ご家族等の目線からの情報を共有するようにしています。我々医療者も捉えていない内容もあり、一緒に学んでいます。

これまでの2年間の活動を通じて、この病気をみんなで支え合い、安心して、勇気づけられ希望を持ち、気持ちや和み整理され、社会の中で生きてご自身の存在価値が実感できることへの支援ができてきたのではないかと感じています。

今後も、より良いがん診療、生活に向けて、皆さんと一緒に考えて、進めて行くことが、より良い地域社会を作るために必要と考えておりますので、積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

日時	ミニレクチャー（講師）	日時	ミニレクチャー（講師）
3/10	緩和ケアについて知ろう（医師）	11/10	治療中のリハビリテーション （理学療法士）
5/12	がんに対する外科治療（医師）		
6/9	お楽しみ会 ～語り合いの場～	12/8	医療者との上手なコミュニケーション （臨床心理士）
7/14	化学療法中の過ごし方（看護師）	1/12	栄養の話 Q&A（管理栄養士）
9/8	食生活とがん（管理栄養士）	2/9	分子標的薬って何だろう（薬剤師）
10/13	痛みとの上手な付き合い方（看護師）	3/9	抗がん剤の他にできること（医師）

地域医療連携研究会の開催報告

第5回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会が

～ 効率的な地域連携を目指して ～をテーマに開催されました

地域医療連携・患者支援部

平成28年2月6日（土）、ホテルマイステイズ宇都宮において、自治医科大学附属病院主催、栃木県医師会・栃木県歯科医師会の後援により「第5回自治医科大学附属病院地域医療連携研究会」が開催されました。当日は、事前受付を上回る予想以上の参加者が集まり、県内外の地域医療に関わる医師・歯科医師・看護師・その他医療技術系職員や連携業務に携わる方々に院内参加者を含め、122名の参加がありました。

佐田病院長の開催挨拶と共に、「附属病院の現況と地域医療連携」についての講演に続いて本年度のテーマ「地域医療連携の実践と展望」について自治医科大学地域医療学センターの梶井センター長を座長として、専門的な立場における演者の講演が行われました。

始めに、トータルクリニック寺門医院の寺門道之院長が「開業医の立場から」と題して、開業医からの適切な情報提供が病院において適切かつ効率的な診療に繋がることについての講演がありました。

次に、当病院腫瘍センターの藤井博文教授から「がん診療医の立場から」と題して、医療提供者の変化も見越してそれに対応できる体制の整備が必要との講演がありました。

続いて、君島歯科医院の君島充宣院長から「訪問歯科診療の立場から」と題して、要介護者の口腔機能の保持等により健康寿命の延伸に寄与できる旨の講演がありました。

引き続き、とちぎ訪問看護ステーションおやまの永井恵子所長から「訪問看護の立場から」と題して、在宅療養者や家族のよりよい生活の実現を図るために活動している旨の講演がありました。

最後に長田地域医療連携・患者支援部長から、今後とも時宜を得たテーマによる研究会を企画・開催したいとの発言により終了しました。

また、研究会終了後開催された交流会では、各医療機能を有する機関で活躍されている方々のお話も交えて、職種を超えたコミュニケーションが取れ、地域連携の大きな輪が広がりました。

講演会



NST研修会のご案内

参加無料（申し込み不要）

会 場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）

対 象 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士の養成を目的とした研修

問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

開催月日・会場	テ ー マ	講 師
平成28年 3月 8日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	在宅・院外施設にむけての 栄養管理・指導	臨床栄養部 荒川 由起子 管理栄養士 （NST専任管理栄養士） 看護部 古内 三基子 看護師 （NST専任看護師）
平成28年 4月19日（火） 17：45～19：30 研修センター 中講堂	第20回下野栄養管理研究会 「胃瘻患者に対する 在宅栄養療法支援の取り組み」 「チーム医療を支えるために 各職種に期待すること」 －栄養サポートチーム看護師としての 活動から見えてきた事－	「胃瘻患者に対する在宅栄養療法支援の取り組み」 看護部 古内 三基子 看護師 （NST専任看護師） 「チーム医療を支えるために各職種に期待すること」 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護師 森 みさ子 先生 （NST専門療法士）